

令和7年度 学校評価 山南中学校パワーアッププラン

1 目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	地域に誇りを持ち豊かな人生を切り拓く生徒の育成 ～ふるさと山南の教育資源（ひと・もの・こと）を生かしながら、統合前の2校（旧山南中、旧和田中）の伝統をつなぎ、それらをひろげ、新たな価値をつくりだす力を育む～
本年度の重点目標	①すべての生徒が安心して学び、生活できる居場所づくり ②生涯学び続けるための基盤となる力の育成 ③教職員の組織力向上と業務改善、人材育成 ④地域資源を生かしたキャリア教育の推進

2 自己評価（達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善）

領域	観点	評価項目	達成状況	学校の取組状況と改善の方策
学校運営	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 対話を重視し、生徒の内面理解に基づく指導 組織的で人権を基盤とした指導 不登校をはじめとするすべての生徒が安心して過ごせる環境づくり 	B	<ul style="list-style-type: none"> 毎月開催する職員会議や毎週開催する生活指導委員会において生徒の情報を共有し、学級担任や学年団を中心にすべての教職員で指導、支援にあたっている。 指導にあたっては対話を重視し、生徒の理解・納得を図り、保護者とも連携しながら、問題の解決に向けて対応している。また、いじめや問題行動については組織的な対応を徹底し、早期発見・即対応に努めるとともに、事案の未然防止にも努めている。 不登校や教室内に居場所をつくりづらい生徒に対しては、校内サポートルームを活用したり、関係機関と連携したりしながら、安心して過ごせる環境づくりに努めるとともに、卒業後の進路を見据えた支援をすすめている。
	保護者・地域住民との連携	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会を核とした地域とともにある学校づくりの推進 地域資源（ひと・もの・こと）を生かしたキャリア教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に学校運営協議会を開催し、委員の方々と学校運営の在り方について、生徒の様子をベースにして協議することが定着している。また、行事や地域活動への生徒の参画にあたって、助言や支援を受けることができている。 1, 2年生の総合的な学習の時間には、地域課題に目を向け、地域資源を生かしてその課題解決に取り組む学習が定着している。
教育課程	指導方法の工夫改善	<ul style="list-style-type: none"> 各種調査結果に基づく授業改善の推進とICTを活用した個別最適な学習の充実 生徒自身が自らの課題から目標を設定し、その実現を図るための学習等を計画し実行する力の育成 	B	<ul style="list-style-type: none"> 全国学調結果により課題が見られる内容については、すべての教科で情報を共有し、改善を図っている。また、学習の基盤となる基礎基本の定着に向けては、朝学習や放課後の学習タイムを活用した補充学習にも取り組んでいる。 ICTを活用した個別最適な学びの実現に向けては、今後の取組の充実が課題である。 目標を設定し、個々の課題解決に向け計画的に学習に取り組む習慣の定着に努めている。また、学習以外の場面（行事等）での活用もすすめている。
課題教育	人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に取り組むよつば学級を核とした人権学習の推進 いじめ、暴力を許さず、不登校を生まない学校風土の醸成 	A	<ul style="list-style-type: none"> 全校生徒の中から51人（全校生徒の4人に1人）が集まり、よつば学級を運営した。市内中学校の人権交流集会や長島愛生園での学習等を通して人権感覚を高めるとともに、文化祭等を活用して学習成果の還元にも努めた。 いじめ暴力ゼロ強化月間での取組を中心に、生徒会が主体となって全校生徒が安心して過ごせる学校づくりをすすめた。今後もいじめを許さない風土の醸成に努めたい。

3 学校関係者評価

- 不登校生徒（年間 30 日以上欠席の生徒）が昨年度から大きく減少した。管理職をはじめすべての教職員が日頃から生徒と接する機会を大切にしたり、生徒の様子を共有したりし、指導支援に生かすことができていると考える。
- （添付資料より）地域行事に積極的に参加する生徒の割合が昨年度から大きく減少している。「積極的」ということから評価を下げた生徒もいるように思うが、地域行事との関わり方を見直す必要もあると感じる。「お客さん」として参加するだけではなく、「スタッフ」として企画・運営に関わるような場面をつくることも考えていきたい。
- 人権学習の一環として「長島愛生園」を訪れ、ハンセン病の実態を直接学んだことを踏まえ、文化祭においてその学習成果を発表していた。保護者をはじめ地域住民も、生徒の発信を受け取る機会を増やしていきたい。
- 「山南中ではよかった」と肯定的にとらえている生徒・保護者の割合は毎年9割を超えているが、設定した目標が高いため自己評価が低くならざるを得ない。そのため、学校経営方針が「絵に描いた餅」になりかねない。現実的な目標にすることや目標達成のための手段を評価することなど、評価の工夫が必要である。
- 学校評価に係るアンケート調査実施にあたり、不登校をはじめとする欠席者も可能な限り調査に関わる（アンケートに回答する）ことができるよう配慮したい。

4 次年度の改善の方向性

- 今年度欠席の多かった生徒をはじめとする一人ひとりの生徒との関係づくりにすべての教職員で精力的に関わり、「山南中の生徒でよかった」と思える居場所づくり、学校づくりに取り組む。その際、校内サポートルーム（校内レインボー）の機能充実を図り、登校しにくい、教室に入りづらい生徒の心のよりどころとするように努める。
- 地域資源を生かしたキャリア教育、アントレプレナーシップ教育を充実し、学年ごとに生徒の実態やニーズに応じた取組をすすめる。また、地域の諸団体と連携して、生徒が地域行事に主体的に取り組む機会をつくり、積極的に地域（づくり）に取り組もうとする姿勢を育む。
- 研究実践を進めてきた「目標を設定し、それに向けて自分自身の課題に応じて学習をマネジメントする」PM/TMを継続するとともに、各教科の授業改善にも積極的に取り組み、将来にわたって必要な力を効果的に育む授業づくりをすすめる。
- よつば学級を核とする人権学習をすすめ、一人ひとりを認め、大切にしようとする学校文化の醸成を図るとともに、学習成果を発信する機会や方法を充実・工夫し、より多くの人と学びを共有できるようにする。

令和8年3月10日

学校名 丹波市立山南中学校

校長名 岸田 孝広